

「フェアトレードでまちづくり」

みなさんは普段、どんなものを買いますか。

私たち消費者は、日々、買い物をして食べものや暮らしに必要なもの、サービスを手に入れています。

最近、「エシカル消費」という言葉をよく見かけます。

毎日の私たちの消費が、世界の未来を変えるとしたら？

エシカルな消費とは、どんなものを選び、どんなものを買うことなのでしょう。

今回は、フェアトレードを通じてまちづくりを行っている

市民団体「いなべフェアトレードタウン」の活動を紹介します。

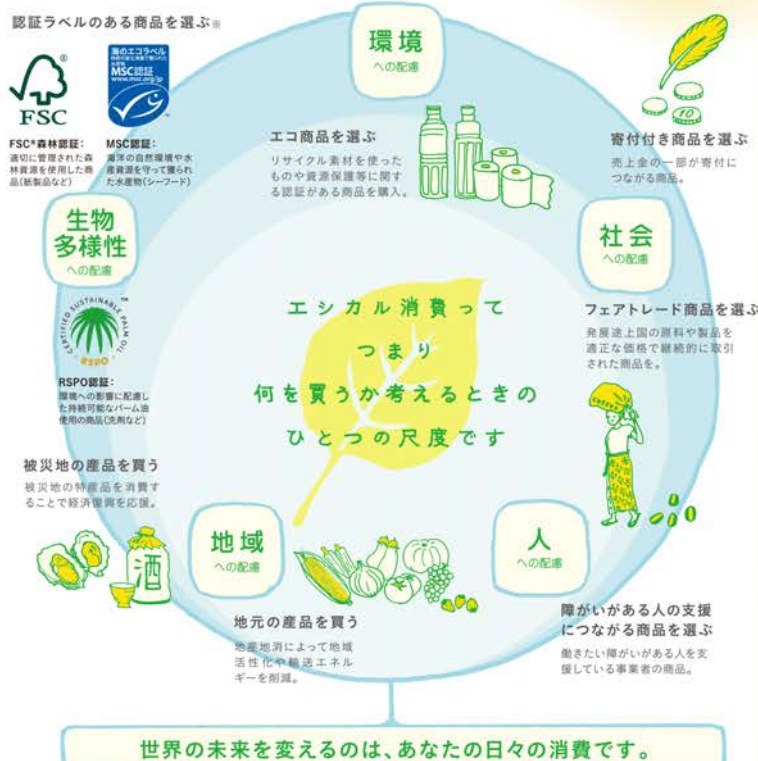


▲いなべ市役所の食堂で飲めるフェアトレードのコーヒー



▲フェアトレードの食材を使用した地域コラボ商品

「エシカル消費」でどんなことが応援できるでしょうか。
具体例の一部を見てみましょう。



※認証機関は他にも多数あり、これらはその一例です。
生物多様性民間参加ガイドライン 第2版 (平成29年12月8日 環境省公表) http://www.env.go.jp/nature/biodic/gi_participation/download.html

出典：消費者庁リーフレット「エシカル消費ってなあに？」

「エシカル消費」とは？

※エシカル(ethical)＝倫理的な・道徳的な

エシカル消費*とは、地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動です。私たち一人一人が、社会的課題に気づき、日々の買物を通して、その課題の解決のために、自分で何ができるのか考えてみることで、これが、エシカル消費の第一歩です。私たちが商品・サービスを選択する際に、「安心・安全」、「品質」、「価格」だけでなく「エシカル消費」という基準も大切です。

引用：消費者庁パンフレット「みんなの未来にエシカル消費」

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標(SDGs)の12番目は「つくる責任 つかう責任」
2015年9月の国連総会で決められた国際的な17の目標のなかにも、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的な社会などと併せて、「持続可能な生産・消費形態の確保」が掲げられています。

引用：消費者庁 エシカル消費特設サイト

<https://www.ethical.caa.go.jp/>

もっと知りたい人はこちら！

いなべ FAIR TRADE TOWN が考える エシカル消費とは

「いなべフェアトレードタウン」は、2018年からフェアトレード推進活動を行っている市民団体です。

2020年度のいなべ市内のフェアトレードタウンマップの作成、専用エコバッグを使ったスタンプラリーイベント(協力店舗にて商品購入ごとにスタンプが押せる)は、いなべを知っていただける一つのきっかけであり、さらにはエシカル消費を促すことにつながると考えております。普段の買い物も「いつ、どこで、だれが、どうやって」作られたのか気にしてみると、新たな地域の魅力や面白い発見があるかもしれません。

私たちは、フェアトレード商品や地産地消を通じて商店街の方々とコミュニケーションをとりながら地域活性化の一助となるべく活動しています



【お話を伺った人】



「いなべフェアトレードタウン」

はば のりこ
代表 羽場 典子さん



「いなべフェアトレードタウン」の会員は現在4名です。それぞれが得意なことをいかして活動を行っています。

市民団体「いなべフェアトレードタウン」
問い合わせ先▶inabefairtradetown@gmail.com
WEB▶<https://inabefairtradetown.wordpress.com/>
Facebook▶<https://www.facebook.com/323747868230550/>



WEBサイトから、活動の情報などをご覧いただけます。

フェアトレードとは？

開発途上国から原材料や製品を不当に安く買うのではなく、適正な価格で継続的に買い取る取引のことをフェアトレードといいます。

私たちがフェアトレード商品を購入することによって

適正な価格で継続的に購入されると、生産者が安定した生活を送れるようになります。



子どもたちが働かずにすみ 農薬の大量使用がなくなり
学校へいけるようになる 産地の環境や生産者の健康が守られる

どんなものがフェアトレードの商品なの？

商品がフェアトレードの基準に見合った方法で作られていることを保証するラベルがあります。その一つに、国際フェアトレード認証があります。生産者への適正な価格の支払い、労働環境保護、農業使用規制、等の国際フェアトレード基準をクリアした製品には認証ラベルがついています。国際フェアトレード認証の対象商品は、コーヒー、カカオ、コットン、紅茶、バナナ、花、スポーツボールなど多岐にわたります。



国際フェアトレード
認証ラベル

フェアトレードタウンとは？

フェアトレードタウンは、市民、行政、企業などが一体となってフェアトレードを広げる運動を行っているまちのことです。いま世界中で広がりをみせています。日本では、一般社団法人日本フェアトレード・フォーラムが定めた、6つの基準を満たすとフェアトレードタウンに認定されます。

- 1 推進組織の設立と支持層の拡大
- 2 運動の展開と市民の啓発
- 3 地域社会への浸透
- 4 地域活性化への貢献
- 5 地域の商業施設によるフェアトレード製品の幅広い提供
- 6 自治体によるフェアトレードの支持と普及

日本では、熊本市（熊本県）、名古屋市（愛知県）、逗子市（神奈川県）、浜松市（静岡県）、札幌市（北海道）、いなべ市（三重県）が認定されています。認定を目指して活動を行っている団体が日本各地にあります。



2019年9月に、日本で6番目にいなべ市がフェアトレードタウンに認定されました。
(写真中央左:いなべ市長 中央右:羽場さん)

フェアトレードタウンを 目指すきっかけ

フェアトレードを通じて、まちを元気にする活動を続ける「いなべフェアトレードタウン」代表の羽場典子さんにお話を伺いました。羽場さんはいなべ市がフェアトレードタウンに認定されるためにも尽力しました。

羽場さんは、旅行でミャンマーを訪れたことがきっかけで、麻薬の代替作物として、そばを栽培することで現地の生産者が自立できるように支援するNPOに、2012年から所属して活動を行っていました。活動を続ける中で、まちぐるみでフェアトレードを普及するフェアトレードタウン運動に出会います。勉強会やイベントに参加して、その魅力を知ろうちに「いなべ市もフェア

トレードタウンになったらいいな」と思うようになっていきました。そして偶然、いなべ市長に出会ったことで大きな転機が訪れます。フェアトレードタウンについて思いを伝えると市長の賛同を得ることができたのです。そこから友人らとともに、2018年に団体を設立し、行政と協働して認定に向けて動き出すことになりました。自分の住む地域では、高齢化が進み閉店するお店が増えて、まちに活気がなくなっていくことを心配していた羽場さんは、「自分たちが活動することで、お店やまちの活性化につながればいいな」という思いがありました。

いなべフェアトレードタウンの誕生

フェアトレードタウンに認定されるためには、そのまちに住む人たちにフェア

トレードについて広く知ってもらうことが必要です。イベントの開催や開催を通して、フェアトレード商品の販売や啓発をしました。またフェアトレードチョコレート料理教室や、学校で授業を行い、子どもたちにフェアトレードについて伝える活動を行いました。認定には、羽場さんたちの活動が認められたことはもちろんのこと、活動を進める中で、他の団体や企業と協力・連携できたことや、市議会議員の方々に「いなべ市のためになることだから」と理解を得られたことが力となりました。また市内に10年以上前からフェアトレードの商品を取り扱うお店があったことなどもあり、団体発足から1年半でタウン認定されることになったのです。



(上)いなべ総合学園高等学校での授業
(下)放課後こども教室での料理教室



▲桐林館で主催したイベントで、フェアトレードのコーヒーや雑貨などを、販売しました。

いなべ市の取り組み

いなべ市は2020年に「SDGs未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」に選定されました。そこで、SDGsを推進する取り組みのひとつとして、学校給食を題材にフェアトレードについて学ぶ、小・中学生向けの動画を制作しました。市の職員が学校などで動画を使用して授業を行い、身近なことが持続可能な社会づくりにつながることを伝えています。

今後は、市内の保育園などへの、フェアトレード食材の導入を目指していこうとしています。



羽場さんも出演中!

「いなべフェアトレードタウン」の活動や、いなべ市内のフェアトレード取扱店についても紹介しています。



いなべの新たな市民活躍の拠点「にぎわいの森」から発信するSDGsを紹介している動画も見ることができます。

▲いなべ市ホームページ「SDGs動画」

「いなべフェアトレードタウン」との関わり

いなべ市は、フェアトレードの普及や、まちの活性化のため、市民団体「いなべフェアトレードタウン」の活動を支持しています。

市として、タウン認定までは協働して活動を行っていましたが、活動が軌道に乗った現在は、広報の協力などのサポート的な役割を担っています。

中世古さん「フェアトレードの活動は、団体やお店、市民のみなさんが主役です。今後も市として見守りながら協力していきます」

いなべ市商工観光課

なかせこ まお
中世古 真央さん



フェアトレード × 地域

羽場さんたちの活動や、フェアトレード

への理解が広まったことで、いなべ市内にはフェアトレードの商品を販売するお店が増えてきています。お店によつては、フェアトレードの食材を使用したお菓子などの地域「コラボ商品」を販売しています。

羽場さん「フェアトレードが発展途上国のためだけでなく、地域のお店の活性化にもつながると実感して欲しい」と考えました。

初めての「コラボ商品は、老舗の和菓子屋さんの「和さぶれ」です。フェアトレードのチョコレートを_using_しています。これをきっかけに、各店の特色を生かした「コラボ商品」が次々と生まれています。



フェアトレードの塩を使用したラスクやせんべいなど。せんべいは、いなべの野菜を使用しています。



商品説明のポスターや、お店の情報をまとめたフェアトレードタウンマップを作成して、商品やお店の魅力を広く伝える工夫をしています。



いなべフェアトレードタウンの
特徴 ①

エコバッグでスタンプラリー

いなべフェアトレードタウンの
特徴 ②

フェアトレード取扱店をめぐって、専用のエコバッグにスタンプを押すスタンプラリーを、今年の春に開催しました。フェアトレード以外の商品の購入や飲食もスタンプの対象となっているのがポイントで、地域のお店と世界の生産者のどちらにも応援する取り組みです。

今回の取り組みが好評のうちに終了したことは、羽場さんたちにとつて、次に繋がる大きな自信になりました。今後は新しいお店にも声をかけて、さらにフェアトレードの輪を広げていきたいと考えています。



スタンプラリーに使用したエコバッグは、フェアトレード認定、オーガニックコットンを使用しています。

フェアトレードで地域の店と市民をつなぐ

羽場さんは、顔なじみのお店で買い物することで得られる安心感やコミュニケーションは、とても大事だと感じています。地域の小さな店が存続していくためには、そのまちに住む人が利用することが必要です。

そこで、年に一度決められた日は、地域の小さな商店で買い物しようというアメリカの「スモール・ビジネスサタデー」という取り組みをモデルに、いなべ市がフェアトレードを通じて地域のお店と市民をつなぐまちになっていくように、活動していきたいと考えています。

また、今の状況（新型コロナウイルス感染症）が落ち着いたら、大きく情勢が動いているミャンマーについて知ってもらい勉強会などを開催して、みなさんに世界へ目を向けてもらおうきっかけ作り

の場を作ろうとしています。

羽場さんは「少ない人数で活動しているので、今後も無理せず楽しみながら続けたいです」と話してくれました。

私たちの買い物で
世界も地域も変える



フェアトレードタウンの活動は、開発途上国の生産者の人権や環境を守ることに、地域の生産者やお店を大事にしたまちづくりの両方を担っています。持続可能な社会のためには、開発途上国との公正な取引と同じように、地域で生産されたものに対しても公正な取引が行われることは、とても大切です。

私たち消費者が、どのお店で、どのような商品を選んで買い物するかによって、世界や地域が変わるというのは決して大げさなことではありません。みなさんもフェアトレードの商品や、自分の住むまちのお店を意識して買い物をしてみませんか？

「エシカル消費」は、その商品に携わるすべての人を思いやることと言えます。今回特集した「いなべフェアトレードタウン」は、誰かを思いやる優しさにあふれたまちです。そんな魅力あふれる場所へ、ぜひ足を運んでみてください。

写真提供 いなべフェアトレードタウン、いなべ市